② 身近な野鳥

調査の対象とした野鳥は、都市の周辺でも見られそうな種類を選びました。

ウグイスやコゲラは標高の高い山地でも繁殖しますが、最近は海の近くや島でも繁殖しています。ウグイスは大きな河川の近くや、広い林の周りに笹藪があることが条件です。コゲラは樹木の多い公園や、緑地などを好みます。

コサギとアオサギは、広い池や水路があれば都会にも飛来します。以前はコサギが多かったのですが、最近はアオサギの方が多くなっています。

カルガモやカワセミも、池や水路があれば都会にも飛来しますが、カワセミが繁殖するためには、巣穴を掘ることができる土の崖が必要です。

ケリは水田や広い草地で繁殖しますので、住宅地と農地が接する部分や、広い空き地がある場所であれば、生息している可能性があります。

ツバメ、コアジサシ、オオヨシキリの３種は夏鳥です。ツバメは説明するまでもない身近な野鳥ですが、コアジサシは近年極端に数を減らしています。沿岸部から繁殖できる広い空き地が無くなり、都市周辺の工場跡や造成地などで営巣を試みる例が増えています。オオヨシキリは本来の生息環境からヨシ原が減少して、ヨシ原のある池があれば住宅地の遊水池でも繁殖します。

野鳥の観察には双眼鏡が必要と思っている人が多いと思いますが、今回は鳴き声だけで種類が分かる種として、ケリ、コアジサシ、カワセミ、コゲラ、ツバメ、ウグイス、オオヨシキリの７種を選びました。他の３種も、声で種類が分る場合があります。スマートフォンの動画で撮影すれば、同時に声も録音できます。遠くても、ごく短時間でも、動きと声が手掛かりになります。

カワセミ、コゲラ、ツバメの３種は、巣の写真があれば種類が分ります。

カワセミの古巣

コゲラの古巣

カワセミは土の崖の上部に、コゲラは樹の幹に直径 5cm 程度の丸い穴を掘って巣を作ります。ツバメは土と草で巣を作り、巣の写真はツバメの解説部分にあります。使用していない古巣も生息や繁殖の証拠となります。

調査テーマ
①
②
③
④
⑤
⑥
⑦
⑧
⑨
⑩
⑪
⑫
⑬
⑭
⑮

調査しやすい月
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
1
2

（西尾市，2016-3-17，髙橋伸夫）

カルガモ　カモ目　カモ科

Anas zonorhyncha Swinhoe

雌雄同色（しゆうどうしょく）、軽（かる）くないけど軽鴨（カルガモ）です

【 形　態 】

全長約 61cm。体は濃褐色で翼の後方に白い帯がある。顔から頸は淡い褐色で、頭と眼及び頬に濃褐色の線がある。嘴は黒く、先端だけ黄色。体色は雄の方が濃く、尾の周囲の羽が真っ黒に見えるのが雄で、羽に淡い色の縁取りがあるのは雌である。

【 分布と生態 】

ほぼ全国に分布しており、県内全域の比較的開けた水辺に生息するが、山間部では生息できる環境が限られる。主に夜間に餌を食べ、昼間は休憩していることが多い。

【 さがすポイント 】

池沼や流れの緩い川の水面や岸辺。水路や、水の張られた水田など。また、秋冬は海上で見られることも多い。

【 よく似た種 】

マガモの雌、オカヨシガモの雌。

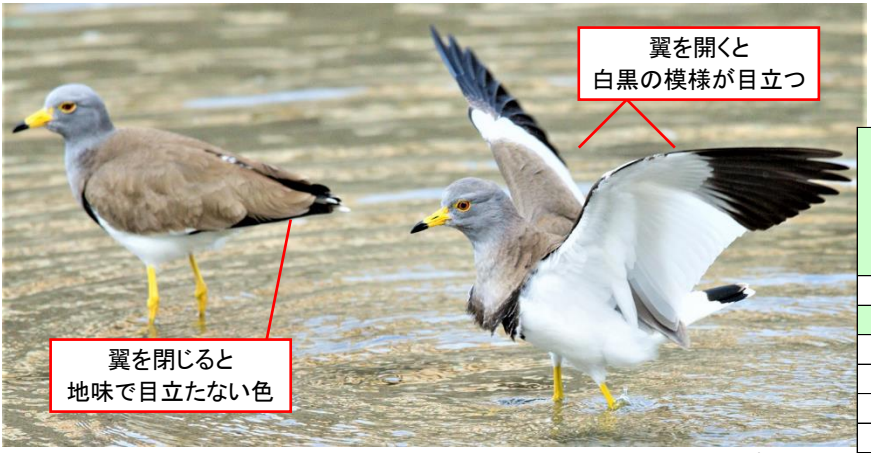
【 参考資料 】

県 GDB②p.A-16

カモの中では大型です。県内の平野部に一年中生息して繁殖しているのはカルガモだけです。他のカモの雄は冬から春になると美しい繁殖羽になりますが、カルガモの雄だけは一年中雌とほぼ同じ色や模様をしています。雌雄の違いは、お尻の周りの羽の色と模様です。春から夏に、水辺の近くの草叢や藪の地上で営巣します。何事も無ければ 12 羽程のヒナが生まれ、母親の後について歩いたり泳いだりと、可愛い姿を見ることができます。以前は都会のビルや緑地で繁殖してニュースになることもありましたが、近年こうした例は少なくなっています。

【 鳴き声の検索はこちら 】
https://www.bird-research.jp/1_shiryo/nakigoe.html
（認定 NPO 法人バードリサーチ提供「鳴き声図鑑」へ）

鳴き声♪が聴けます。



（名古屋市, 2016-12-26, 杉山時雄）

ケリ　チドリ目　チドリ科

Vanellus cinereus (Blyth)

水田に春の到来を告げる声（すいでんにはるのとうらいをつげるこえ）

【 形　態 】

全長約 36cm。頭と胸は灰青色で背は灰褐色、下面と尾は白く、嘴の先と翼の先、下胸、尾の先端近くが黒色。嘴と脚は黄色で眼は赤色。地上にいる時は目立たないが、飛び上がると翼の白と黒がよく目立つ。

【 分布と生態 】

繁殖しているのは本州のみで、中部と近畿に多い。平野部や丘陵地の水田などに生息して、主に昆虫などの小動物を食べるが、河川や干潟で見られることもある。

【 さがすポイント 】

平野部で水の入った広い水田があれば、見られる可能性が高い。特に春から夏はよく鳴くので、その声で見つけることができる。

【 よく似た種 】

ムナグロ、ダイゼン。体型はよく似ているが、嘴や体の色と模様が異なる。

【 参考資料 】

県 GDB②p.A-19

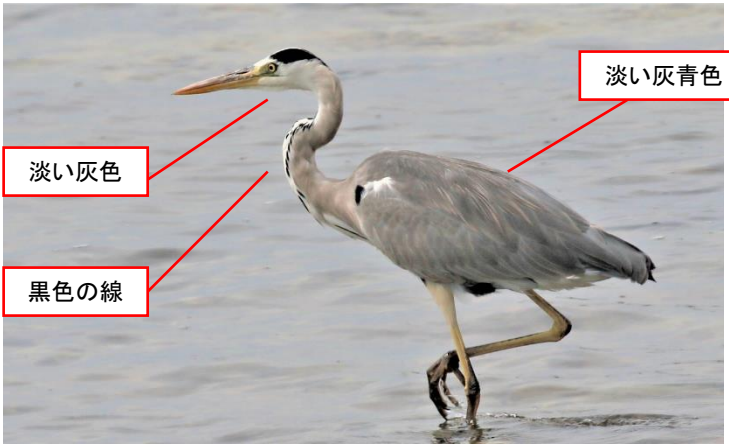
繁殖期以外は静かな鳥で、飛び上がった時だけ翼の色と模様がよく目立ちますが、地上に降りると消えてしまいます。春の気配を感じる２月の半ば頃から、風の無い暖かい日にケリが鳴き始め、夜間に鳴くこともあります。鳴き声はキキッ、キキッ、キキッ、ケリ、ケリ、ケリ、ケリ、などと大声で騒ぐように鳴きます。巣やヒナに近付くと、鳴きながら頭上スレスレまで急降下して威嚇することもあります。実際に突かれることや、蹴られることはありませんが、卵やヒナを踏まないよう、ヒナが危険な方向へ行かないように、直ぐにその場から離れてください。

【 鳴き声の検索はこちら 】
https://www.bird-research.jp/1_shiryo/nakigoe.html
（認定 NPO 法人バードリサーチ提供「鳴き声図鑑」へ）

鳴き声♪が聴けます。

調査テーマ
①
②
③
④
⑤
⑥
⑦
⑧
⑨
⑩
⑪
⑫
⑬
⑭
⑮

調査しやすい月
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
1
2



（西尾市, 2017-10-1, 髙橋伸夫）

アオサギ　ペリカン目　サギ科

Ardea cinerea Linnaeus

松に鶴は止まりません

【 形　態 】

全長約 93cm。体全体が淡い灰色と灰青色で、黒色の線がある。嘴と脚は淡い黄褐色で、繁殖期は赤味を帯びる。繁殖期は後頭に黒色の冠羽、体は全体に明るい色になるが、幼鳥は全体にくすんだ暗色である。

【 分布と生態 】

全国に分布して繁殖するが、北海道では夏鳥。県内の水辺に広く分布しており、近年は山間部の水辺でも姿を見る機会が多くなっている。また、樹木の先端に止まって休息することが多いので、目に付き易い。

【 さがすポイント 】

河川や池沼から海まで、水辺であれば生息している可能性があり、平野部の大半では上空を飛翔する姿を見ることができる。開いた翼の幅は 160cm と大きく、よく目立つ。

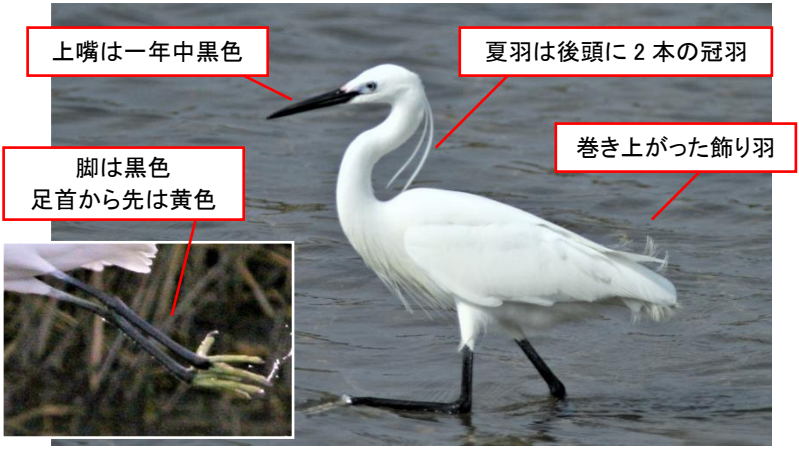
【 よく似た種 】

ゴイサギ。色は似ているが体は小さく、頸が短いのでずんぐりした形に見える。

国内最大のサギで、大きな翼をややM字型に曲げ、ゆっくりフワフワと羽ばたいて飛びます。飛びながら大声で、ゴアーとかキャッなどと鳴きます。1980 年代までは山間部で姿を見ることは稀でしたが、現在では普通に見られるようになりました。以前はツルと間違えられることも多く、松に止まる鶴の絵はアオサギがモデルと思われます。沿岸部の林で繁殖することが多いのですが、筏の上や地上で繁殖した例もあります。主に水辺で魚を捕食しますが、昆虫や小型の両生類、爬虫類をはじめ鳥類のヒナや、ネズミなど小型の哺乳類も捕食します。

【 鳴き声の検索はこちら 】
https://www.bird-research.jp/1_shiryo/nakigoe.html
（認定 NPO 法人バードリサーチ提供「鳴き声図鑑」へ）

鳴き声♪が聴けます。



（西尾市, 2011-4-26, 髙橋伸夫）

コサギ　ペリカン目　サギ科

Egretta garzetta (Linnaeus)

白鷺（しらさぎ）は小首傾（こくびかし）げて魚獲（さかなと）り

【 形　態 】

全長約 61cm。全身白色で、上嘴は一年中黒色であり、脚も黒く足首と指だけが鮮やかな黄色である。繁殖期には後頭に長い冠羽が 2 本と、尾の周りに巻いた形の飾り羽が見られるのがコサギの特徴。白いサギには他にダイサギとチュウサギなどもいるが、コサギ以外は秋冬に嘴が黄色になる。

【 分布と生態 】

本州以南で繁殖する留鳥と思われるが、遠くは東南アジアへ渡るものもいる。浅い水の中や岸で比較的小型の魚や水性の小動物を捕食する。

【 さがすポイント 】

干潟や河川、水路や池沼の浅い水辺、およびその周辺の灌木。

【 よく似た種 】

チュウサギ、ダイサギ。チュウサギが川や水路で魚を獲ることはなく、チュウサギ、ダイサギ共に、脚は指先まで全て黒い。

1990 年代まで、シラサギ（白いサギ）といえばコサギといえる程数の多いサギでした。白いサギには、ダイサギやチュウサギもありますが、圧倒的に数が多く、山間部まで分布して、県内全域の水辺で見られる種はコサギだけでした。

その後コサギが減り、ダイサギやアオサギ（前頁）が増加しています。その原因は不明ですが、1990 年代から県内の平野部で繁殖を始めるようになったオオタカは好んでコサギを食べ、1 回の食事でコサギを 1 羽食べてしまうことが分かっています。

【 鳴き声の検索はこちら 】
https://www.bird-research.jp/1_shiryo/nakigoe.html
（認定 NPO 法人バードリサーチ提供「鳴き声図鑑」へ）

鳴き声♪が聴けます。

調査テーマ
①
②
③
④
⑤
⑥
⑦
⑧
⑨
⑩
⑪
⑫
⑬
⑭
⑮

調査しやすい月
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
1
2

（碧南市, 2017-6-4, 髙橋伸夫）

コアジサシ　チドリ目　カモメ科

Sterna albifrons Pallas

夏の海には欠かせぬ脇役

【 形　態 】

全長約 22～28cm。白い体に黒色の頭、淡灰青色の背に嘴は黄色で先端だけが黒色。水面の上空を飛ぶ姿は、糸を引く様に滑らかである。

【 分布と生態 】

初夏から夏に本州以南で繁殖して、秋冬は赤道以南の東南アジアからオーストラリアで越冬する。海上や河川、池沼などの上空を飛び、水中に飛び込んで小魚を捕食する。広い砂地や裸地で集団繁殖をする。

【 さがすポイント 】

4～8 月に、沿岸部の海上や河川の中下流域および池沼や水路など。以前はごく普通に見られたが、近年は減少している。

【 よく似た種 】

アジサシ、クロハラアジサシ類。コアジサシのように、よく通る声で鳴くことはない。

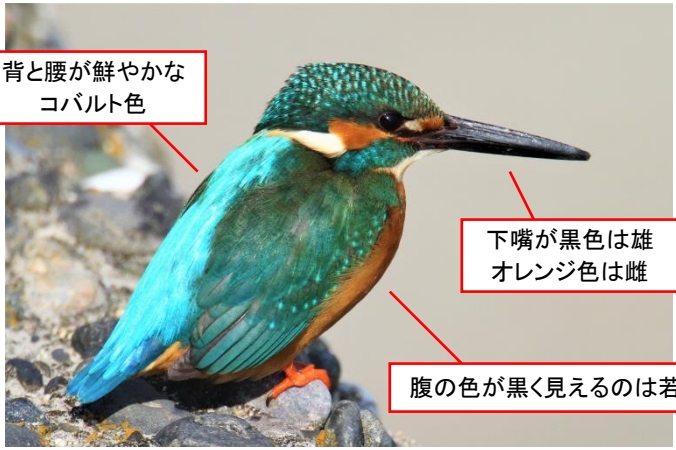
【 参考資料 】

県 RDB 動 p.131

飛びながら高くよく通る声で、クリッ、クリッ、あるいはクリリッ、またはキリリリッ、などとよく鳴きます。姿は広い水辺と空に紛れて見えなくても、その声だけでコアジサシの存在が分かります。4 月の下旬頃から 7 月末まで、広い裸地で繁殖します。以前は何千羽という群れも見られましたが、近年は沿岸部から繁殖場所が消失して、内陸の空地や開発地などで繁殖するものもありますが長続きはしません。繁殖環境の消失に加え、平野部で増加しているカラスや、近年県内で繁殖を始めたチョウゲンボウなどの猛禽類による卵やヒナの捕食も大きな脅威です。

【 鳴き声の検索はこちら 】
https://www.bird-research.jp/1_shiryo/nakigoe.html
（認定 NPO 法人バードリサーチ提供「鳴き声図鑑」へ）

鳴き声♪が聴けます。



（西尾市, 2015-1-25, 髙橋伸夫）

カワセミ　ブッポウソウ目　カワセミ科

Alcedo atthis (Linnaeus)

見(み)た者(もの)を野鳥(やちょう)の世界(せかい)に引(ひ)き込(こ)む鳥(とり)

【 形　態 】

全長約 17cm。嘴と頭が大きく体は小さい。頭と上面は青緑色にコバルト色の斑、背と腰は鮮やかなコバルト色。眼先と耳羽、腹はオレンジ色で喉と頸側部は白い。

【 分布と生態 】

ほぼ全国に分布して繁殖するが、北海道では夏鳥。県内の全域に生息するが、標高の高い地域で繁殖するものは冬期に低地へ移動するものと思われ、水面が氷る季節になると姿を見せなくなる。

【 さがすポイント 】

河川や池沼、水路など、魚の棲む水辺があれば、どこでも見られる可能性がある。また、水面が見下ろせる堤防や棒杭などがあれば、海で採餌するものもいる。繁殖するためには巣穴を掘ることができる土の崖が必要であるが、近年はコンクリートの護岸に設置された、水抜き用のビニールパイプで営巣した例も報告されている。

野鳥に興味を持つキッカケとして、カワセミを見て心が引かれたという人がたくさんいます。漢字で翡翠と書くように、鮮やかな色は飛ぶ宝石といえます。美しい色は色素ではなく、羽の構造でできる色なので、光が当たると最も綺麗に輝きます。雄は嘴が全て黒色で、雌は下嘴がオレンジ色です。幼鳥の羽は光沢が少なく下面も黒っぽい色です。鳴き声は金属的な高い声で、チッ、チッ、チッ、あるいは昔の自転車のブレーキのような声でキィーキィーキィーと鳴くこともあります。巣穴は土の崖の上部に掘り、1m 程度の高さの崖でも営巣することがあります。

【 鳴き声の検索はこちら 】
https://www.bird-research.jp/1_shiryo/nakigoe.html
（認定 NPO 法人バードリサーチ提供「鳴き声図鑑」へ）

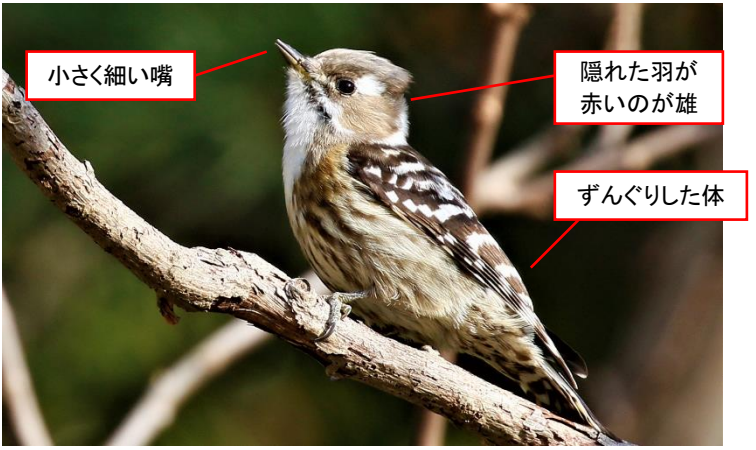
鳴き声♪が聴けます。

調査テーマ
①
②
③
④
⑤
⑥
⑦
⑧
⑨
⑩
⑪
⑫
⑬
⑭
⑮

調査しやすい月
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
1
2

調査テーマ
①
②
③
④
⑤
⑥
⑦
⑧
⑨
⑩
⑪
⑫
⑬
⑭
⑮

調査しやすい月
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
1
2



（蒲郡市，2017-1-18，髙橋伸夫）

コゲラ　キツツキ目　キツツキ科

Dendrocopos kizuki (Temminck)

ちっちゃいけれど啄木鳥（きつつき）です

【 形　態 】

全長雄約 15cm。スズメ位の体長ではあるが、嘴が細く短くずんぐりした体なので、実際にはスズメより少し大きな野鳥である。上面は濃褐色と白色の横縞、下面は褐色の縦斑がある。雄の後頭には、赤く小さな羽が隠れているが、通常その羽の確認はできないことが多い。写真の個体は雄で、ほんの少しだけその赤色の羽が認められる。

【 分布と生態 】

ほぼ全国に留鳥として分布しているが、渡りの季節には移動するものもいる。本来、県内では山地で繁殖していたが、1980 年代から 1990 年代になると、尾張や西三河の平野部でも繁殖するようになった。

【 さがすポイント 】

ギィーッ、あるいはギィーッ、キッ、キッ、キッ、というよく通る鳴き声でその存在が分る。

枯れ枝の中にいる昆虫を、小さな丸い穴をたくさん空けて捕食することも多い。

標高 1,000m を超える山地から臨海緑地、三河湾の島嶼まで、県内全域に分布して繁殖しています。木の幹に直径 4～5cm 程の丸い巣穴を穿って繁殖します。巣穴は毎年新しいものを掘りますので、公園や緑地でもこの穴があれば繁殖していたことが分かります。秋冬はシジュウカラの仲間やメジロなどと混群を作り、林の中を移動しながら餌を捕ることもあります。キツツキの仲間は毎回新しい巣穴を掘って繁殖しますので、使用済みの巣穴は多くの鳥類や、昆虫などが巣として利用しています。他の生き物にとって、重要な役割を果たしている野鳥なのです。

【 鳴き声の検索はこちら 】
https://www.bird-research.jp/1_shiryo/nakigoe.html
（認定 NPO 法人バードリサーチ提供「鳴き声図鑑」へ）

鳴き声♪が聴けます。

（豊田市，1987-7-1，杉山時雄）

ツバメ　スズメ目　ツバメ科

Hirundo rustica Linnaeus

コンビニの軒下（のきした）が大好（だいす）き

【 形　態 】

全長約 17cm。頭頂から体の上面は紺色の光沢がある黒色で、下面は白く眼先と下顎から喉は赤色。尾羽には白斑があり、左右両端の尾羽が細く長い。幼鳥の羽には光沢が少なく、両端の尾羽は短い。

【 分布と生態 】

国内には夏鳥として飛来する。愛知県には 3 月初旬頃から飛来して、10 月初旬頃までに飛去する。

【 さがすポイント 】

人家のある場所であれば山間部の集落から都会まで、どこでも飛来して繁殖する最も身近な夏鳥である。近年は建物の構造が変化して、営巣できる場所が減少している。

【 よく似た種 】

イワツバメ、コシアカツバメ。イワツバメは尾が短くてジュリリ、ジュリリと鳴き、コシアカツバメは体が長く、腰の部分が淡くて赤味があり、腰の黒いツバメとは異なる。

越冬期の分布は東南アジアからオーストラリア北部ですが、基本的に翌年の春には前年繁殖した場所へ、1 年目の若鳥では生まれた場所へ帰ります。誰に教わらなくても地球上の位置が分ると思われ、この能力はツバメに限らず多くの鳥類で知られています。前年の場所に繁殖できる環境が無い場合は、他を探して移動すると思われます。近年、建物から巣を架けられる場所が少なくなっている上に、天敵のハシブトガラスが増加しています。ツバメの巣はカラスに観察されており、巣立ちの時を狙ってヒナを捕食される例がかなり多くなっています。

【 鳴き声の検索はこちら 】
https://www.bird-research.jp/1_shiryo/nakigoe.html
（認定 NPO 法人バードリサーチ提供「鳴き声図鑑」へ）

鳴き声♪が聴けます。

調査テーマ
①
②
③
④
⑤
⑥
⑦
⑧
⑨
⑩
⑪
⑫
⑬
⑭
⑮

調査しやすい月
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
1
2

調査テーマ
①
②
③
④
⑤
⑥
⑦
⑧
⑨
⑩
⑪
⑫
⑬
⑭
⑮

調査しやすい月
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
1
2

（豊田市, 2002-3-24, 杉山時雄）

ウグイス　スズメ目　ウグイス科

Cettia diphone (Kittlitz)

最近は海の横でもホーホケキョ

【 形　態 】

全長雄 16cm、雌 14cm。全身オリーブ褐色で、眉斑と体の下面は色が淡く、過眼線はやや色が濃い。

【 分布と生態 】

全国に分布し、九州以北で繁殖。県内では近年山麓部から平野部や半島、島嶼にまで繁殖分布が拡大している。春夏は昆虫など動物質の餌を主に食べているが、秋冬には植物の果実なども好んで食べる。

【 さがすポイント 】

春から夏は笹薮のある場所で、耳を頼りにホーホケキョ、と鳴く囀りを探すのがよい。山地だけでなく丘陵地や半島、島嶼でも。平野の場合は大きな川の川岸や、広い林の周りで繁殖している可能性がある。

【 よく似た種 】

姿はムシクイ類。地鳴きの声はシロハラ。

【 参考資料 】

県 GDB②p.A-21

ホーホケキョ、というウグイスのさえずりは、ウグイスを探すときには大きな手掛かりとなります。愛知県では主に 3～8 月頃にさえずりが聞かれ、秋冬はチャッ、チャッ、あるいはジャッ、ジャッ、という地鳴きになります。ケッキョ、ケッキョ、と鳴くのは警戒声なので、近くで鳴く場合はすぐその場を離れてください。

平野部では、5 月の初め頃までさえずりが聞かれても繁殖していない場合があります。以前は、標高 300m 以上の山の上で繁殖し、秋冬を山里や平野で過ごす漂鳥でしたが、1980 年頃から標高の低い平野部でも繁殖するようになりました。

【 鳴き声の検索はこちら 】
https://www.bird-research.jp/1_shiryo/nakigoe.html
（認定 NPO 法人バードリサーチ提供「鳴き声図鑑」へ）

鳴き声♪が聴けます。

（安城市，2018-5-17，髙橋伸夫）

オオヨシキリ　スズメ目　ヨシキリ科

Acrocephalus orientalis (Temminck & Schlegel)

ヨシ原（はら）に新緑満（しんりょくみ）ちて行々子（ぎょうぎょうし）

【 形　態 】

全長約 18cm。上面はオリーブ褐色で、眉斑と喉から下面は淡色。腹は黄褐色味があり、腹の側部はその色が濃い。体は立ち気味で頭が大きく、尾は下に下げる。上を向いて囀るときは、額や頭頂の羽を立てる。

【 分布と生態 】

夏鳥として日本に渡来し、愛知県では主に沿岸部や平野部から丘陵地の池沼、河川の岸にあるヨシ原などで繁殖する。渡来当初は昼夜を通して、ギョッ、ギョッ、ギョッ、ギョギョシ、ギョギョシ、ケケシ、ケケシ、などと大声で囀り続ける。

【 さがすポイント 】

平野部や丘陵地でも、池沼にヨシ原があれば生息する可能性がある。

【 よく似た種 】

他のヨシキリ類、センニュウ類。

【 参考資料 】

県 GDB②p.A-22

愛知県には４月の半ば頃に渡来して、10 月初め頃までには渡去する夏鳥です。行々子とはオオヨシキリのことで、その囀りそのものです。俳句では葭切も同じ意味で、夏の季語となっています。平野部の池や水路では、昔から人間社会のすぐ近くにいた鳥でしたが、都市化や環境破壊が進むと、沿岸部にある干拓地や埋立地の鳥になりました。近年、さらに干拓地や埋立地からヨシ原の面積が激減すると、内陸の住宅地や工業団地などに造られた遊水池のヨシ原でも繁殖するようになりました。声は少し賑やかですが、昔からそれが初夏の風物詩とされてきました。

【 鳴き声の検索はこちら 】
https://www.bird-research.jp/1_shiryo/nakigoe.html
（認定 NPO 法人バードリサーチ提供「鳴き声図鑑」へ）

鳴き声♪が聴けます。

調査テーマ
①
②
③
④
⑤
⑥
⑦
⑧
⑨
⑩
⑪
⑫
⑬
⑭
⑮

調査しやすい月
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
1
2